

のぞいてみよう！

## となりの協調学習！（7）



平成 28年6月 10日  
安芸太田町教育委員会（担当：萩原英子）

今年度が始まって、2か月がたちました。今年度も「協調学習通信」の発行を通して、皆さんと安芸太田町の「新しい学び」を話題にしていきたいと思います。さて、ここで問題です。



昨年度、安芸太田町の小中学校で実践された協調学習の授業数はどれくらいでしょう？

正解は・・・？

### 【27年度の町内での授業実践の状況】

- ・実践に取り組んでいる教員・・・60名/85名中
- ・実践授業数・・・公開授業研究 48回 通常の授業で 120回

この数字、多い？少ない？ 皆さんはどう感じられるでしょうか。もちろん、授業者である先生の経験や立場によって実践数には大きな違いはあります。ですから、数の多さを求めているではありません。しかし、安芸太田町に勤めていただいている8割近くの先生が、知識構成型ジグソー法の手法を用いた協調学習の授業を実践しているということには大きな意味があります。そして、安芸太田町で学んでいるすべての児童生徒が1年間どこかで協調学習の授業を経験しているということが、私たちの自慢でもあります。

実際に自身の授業で協調学習を実践したとき、先生はどのような感想や気づきを持たれたでしょうか。授業を準備しながら、授業中、そして授業後・・・子供たちのつばやきや学びの姿への先生ご自身の気づきを大切にしてくださいね。

教材作成や授業デザイン、クロストークでの指導者の立ち位置……。実践すればするほど、気になることが出てきますね。そう、子供たちの学びと同じで、知れば知るほどもっと知りたくなる・・・これが「学び続ける」原動力です。この1年間、安芸太田町の子供たちに負けないぐらい、私たちも「学び続ける」教職員、教育委員会でありたいですね。今年度も、周りを巻き込みながら、対話を通して、より賢くなりましょう！授業づくりの際には、ぜひ声をかけてください。対話の仲間に加えていただくと嬉しいです。

裏面に続く

## あなたは新教材派？既存教材派？

協調学習に限らず、学習課題の設定は重要なポイントです。シグソー課題をどうするか—これで協調学習の8割は決まるといってもいいかもしれません。なかなか実践へのハードルが高いのは、課題設定を含めた教材作りの難しさがありますね。

これまでに、いくつか実践をされてきた先生は、ぜひご自身の手で授業デザインにチャレンジしてみてください。子供たちに出会ってほしい課題と学びの中でたどり着いてほしいストーリーを設定し、そこへつなげてもらえるようなしなやかなしなやかな資料に盛り込む。授業中は、子供たちの対話に耳を傾け、最後のクロストークで子供たちの学びを紡ぐ役をする。子供たちと授業づくりを楽しむことができますよ。

そして、「自分で作るのは難しいなあ」と感じているあなた！安心してください！既存教材を活用することで、新教材作成と同じような楽しみを味わうことができます。ポイントは・・・。

- 教材や授業デザインに込められた仕掛け（意図）をつかむ。
- 学級の実態+目指す学びのゴールや語ってほしいストーリーを明確にする。
- 既存デザインの中で、自身の目指すものに近づくためのアレンジ（課題，資料，発問の変更）をする。

### 【実践後】

- 自分のアレンジの意図は、実際の児童生徒の学びの姿の事実からみて、うまく効いたかどうかを検討します。うまくいかなかったとしたらどう改善すればいいのかを考えます。

CoREFのDVDには、実践者の振り返りシートがあります。アレンジの参考にしてください。



5月末に町内で実践された戸河内中の国語科（中2）、加計小の算数科（小4）、加計中の国語科（中2）は、いずれも既存の教材と授業デザインを基に、上にあげたような流れで教材を検討され、アレンジした内容で行われました。その後の研究協議では、授業者の意図を基に、子供たちの学んでいた姿（事実）から、そのアレンジについて検討され、非常に有意義な協議となりました。



### 【これはお約束！】

教材アレンジの場合も、各校の研究推進員やサポートメンバーなどCoREFのメーリングリストに登録している先生方を通して、アレンジしたもの、その意図などをメーリングリストに流してくださいね。授業後の振り返りシートも可能な範囲で記入して送ってください。こっそりやるのはよくありません！